

シンポジウム

原子力依存からの脱却と 地域再生

—核燃・原発廃止への道筋を探る—

2014年6月14日(土)

午後2時～5時

リンクステーションホール青森
(青森市文化会館)

パネラー：伴英幸氏 (原子力資料情報室 共同代表)

長谷川公一氏 (東北大学大学院文学研究科教授)

神田健策氏 (弘前大学名誉教授)

●—— 入場無料

主催：青森県弁護士会
共催：日本弁護士連合会
東北弁護士会連合会

問い合わせ先：青森県弁護士会 / 青森市長島1-3-1 日赤ビル5階

TEL: 017-777-7285

私たちの○を見つけよう!

シンポジウム

原子力依存からの脱却と 地域再生

—核燃・原発廃止への道筋を探る—



2014年10月に函館市で開催される日本弁護士連合会の第57回人権擁護大会において、「北の大地から考える、放射能汚染のない未来へ—原発事故と司法の責任、核のゴミの後始末、そして脱原発後の地域再生—」というテーマでシンポジウムを行ないます。

今回青森で開催するプレシンポジウムは、核燃料サイクル施設や原発が集中する青森県において、どうすれば原子力に頼らない社会を実現できるかを討論するものです。

たくさんの人たちが「もう原子力はやめよう…」と言っています。でも、この国は「原子力を進めるんだと…」と言っています。これからは自分たちの生きる地域を自分たちで考え、自分たちで作っていかねばいけない時なのではないのでしょうか？

そう…私たちが考える〇をどれだけ見つけるか。そんなことの一步でありたいと思っています。

多くの皆様の参加をお待ちしております。



伴英幸氏（原子力資料情報室 共同代表）

原子力資料情報室共同代表。1951年三重県生まれ。1975年早稲田大学卒業。生活協同組合専従を経て、1989年脱原発法制定運動の事務局スタッフ。1990年原子力資料情報室スタッフとなる。1995年同事務局長。1998年共同代表。共著書は『原子力市民年鑑』（七つ森書館）、『JCO臨界事故と日本の原子力行政』（七つ森書館）、『検証 東電トラブル隠し』（岩波ブックレット）ほか。



長谷川公一氏（東北大学大学院文学研究科教授）

東北大学大学院文学研究科教授。1954年山形県生まれ。1983年東京大学大学院社会学研究科博士課程修了。環境社会学、社会運動論、社会変動論など。『脱原子力社会へ』（岩波新書、2011年）、『脱原子力社会の選択 増補版』（新曜社、2011年）ほか。環境問題をめぐる紛争、環境政策の転換に果す社会運動の役割などを研究。座右「石ころ一つあれば一生遊べる」（熊谷守一）。



神田健策氏（弘前大学名誉教授）

弘前大学名誉教授。1948年12月北海道生まれ。北海道大学大学院農学研究科博士課程修了（1981年3月農学博士）。専門分野は農業経済学・協同組合学。『新自由主義下の地域・農業・農協』（編著、筑波書房、2014年2月）、『グローバル下の北東北地域—地域経済・財政・住民福祉の現状』（井上博夫共著、弘前大学出版会、2010年）ほか。